

令和 7 年 4 月 1 日

就労継続支援 A 型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	就労支援センターワーク・キューブ	事業所番号	2811000427
住 所	芦屋市公光町3-4	管理者名	鍋島奈穂子
電話番号	0797-21-5577	対象年度	令和 6 年度

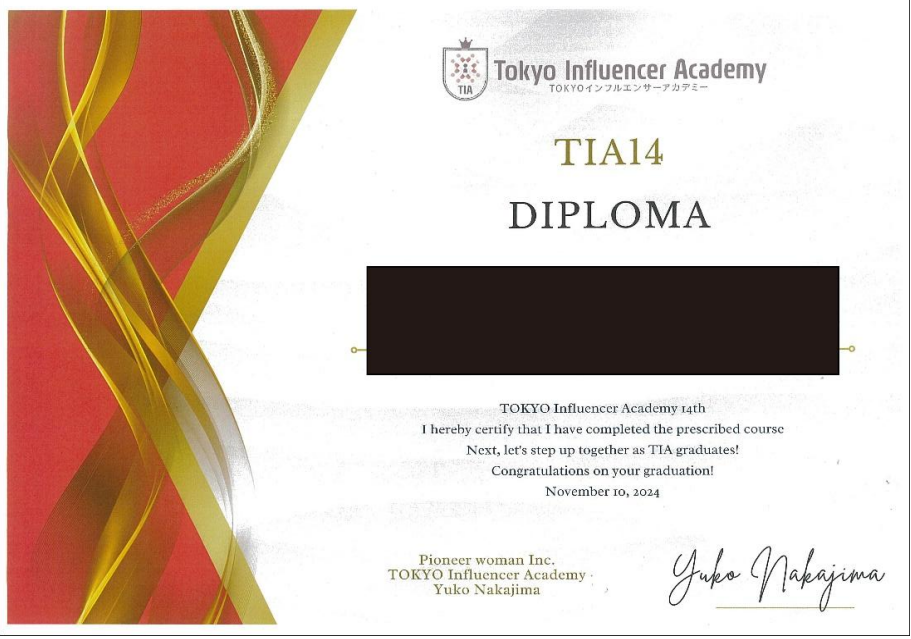
利用者の知識・能力向上に係る実施概要	
<活動内容> 活動場所 総合リハビリテーションセンター 職業能力開発施設 実施日程 令和 6 年6月4日～10月4日（全 5 回） 実施した利用者の知識・能力向上に係る実施の概要 ・ビルメンテナンス技術習得訓練講座 専門家による実技指導やインターシップを通じてビル清掃の基礎を学ぶ。 利用者数 1 名	<活動の様子> 第 1 回 6月 4日 開講式（代表挨拶） 講義・実技訓練 第 2 回 11日 実技訓練 第 3 回 13日 実技訓練 第 4 回 25日 実技訓練 閉講式 実技発表会 第 5 回 10月 4日 都市環境の日・清掃奉仕作業 （悪天候のため中止） 
<目的> 一般就労を見据え、より専門的な清掃技術を習得することで就職先選択の幅を広げることを目標とし、受講する。受講後は所属事業所の清掃活動に活かすねらいもある。	
<成果> ・全日程履修し、ビルメンテナンス技術習得訓練講座修了証書を交付していただいた。 ・基本的な清掃技術を学ぶことで、現在従事している業務にも活かすことが出来ている。	

連携先の企業や事業所等の意見または評価	
連携先企業（担当者）	

利用者からの意見・評価
ビルメンテナンスはひとりですることだと思っていましたが、そうではなく仲間と協力し、お客様に喜んでいただけるような仕事だと改めてわかりました。この研修を通してきれいにすることも大切ですがお客様への心づかいも大切だと思いました。

就労継続支援 A 型事業所における利用者の知識・能力向上に係る実施状況報告書

事業所名	就労支援センターワーク・キューブ	事業所番号	2811000427
住 所	兵庫県芦屋市公光町3-4	管理者名	鍋島 奈穂子
電話番号	0797-21-5577	対象年度	令和6年度

利用者の知識・能力向上に係る実施概要	
＜活動内容＞ TOKYOインフルエンサーアカデミー 活動場所 オンライン 実施日程 7月4日 講座 7月18日 講座 7月12日 個別コンサルティング 8月22日 個別コンサルティング 8月23日 講座 8月30日 講座 9月12日 講座 9月20日 個別コンサルティング 9月26日 講座 10月10日 講座 10月16日 個別コンサルティング 10月24日 講座 実施した利用者の知識・能力向上に係る実施の概要 利用者数 1名	＜活動の様子＞ 1ヶ月目 実際に私がInstagramに120時間かけて判明した、素人でもフォロワーを増やす3つのブランディング法則 2ヶ月目 ストーリーズを制するものはインスタを制す！ ファンの作り方・実践編 3ヶ月目 アカウント開設初期に仕事の依頼を獲得したハッシュタグ戦略 &バズるだけで終わらない！夢をかなえるリール術 4ヶ月目 「旅行、洋服、子育てグッズ、エステ、化粧品、最新家電、 地方創生」すべてを手に入れるインスタPR案件獲得の法 成果物の写真 
＜目的＞ 利用者の知識・能力向上に係る実施のねらい ・将来的な独立開業に向け、自社ECサイトやオンラインショップページの売上アップを目的とした、出品商品知名度の向上や集客方法としてのSNSマーケティングを知	
＜成果＞ 実施した結果 得られた成果 課題点 ・知らなかったことが知れてうれしかった ・発信に際して苦手意識を持っていたが、同期やサポーターの支えでよい経験ができた ・発信力をつけていけば「バズる」ことかできるんだと自信につながった	

連携先の企業や事業所等の意見または評価	
連携先企業（担当者）	

利用者からの意見・評価
参加した利用者からの意見・評価 ・誰に届ける発信内容であるかを固め、少しずつではあるが投稿できた ・同期と横のつながりを通して、仲間を作りながら成長することができた ・自分が発信したい内容が認知されすこしずつひろまってきた ・一緒に学ぶだけでなく、受講中にオフ会に参加し、同期とは深いつながりを作ることができた 卒業後もかかわれるコミュニティとして残してくださり、今後も深いつながりができた ・決断して受講してよかったと感じた

就労継続支援 A 型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	就労支援センターワーク・キューブ	事業所番号	2811000427
住 所	芦屋市公光町3-4	管理者名	鍋島 奈穂子
電話番号	0797-21-5577	対象年度	令和6年度

地域連携活動の概要	
＜活動内容＞ 活動場所：芦屋大学福山記念館5F就労支援スペースあしかふえ 実施日程：令和6年4月1日～令和7年3月31日 実施した施設外就労の概要： 芦屋大学内でのカフェ運営請負業務 利用者数：3～7人／日	＜活動の様子＞ 出張カフェ  ユニバーサルカフェライブ  オリジナルブレンド製作  ワークショップ 
＜目的＞ 地域の方々が集えるスペースの提供及び、インクルーシブ教育の場として、学生や地域の方々と障がい者が交流できる機会を作り、共生社会を体感し学べる空間とすることを目的としてカフェ運営を行っています。日常生活の中で共生社会を感じながら情操を育む機会にもなります。	
＜成果＞ ①2017年より兵庫県立芦屋特別支援学校の「職業」という授業の地域サービス班の生徒に実習の場を提供。 ②前年度に引き続き芦屋学園祭への参加、カフェライブ、出張カフェなどのイベントを実施し、大学関係者や地域の方との交流を深めることができた。 ③TAKAHASHI Coffee協力の元、オリジナルブレンドを製作。珈琲豆のハンドピックワークショップや販売会を通じて学生ボランティアや地域の方、芦屋市の高島市長、他の事業所の利用者さんと交流を深めることができた。	高島市長 

連携先の企業等の意見または評価			
障がい者就労支援スペース「あしかふえ」は芦屋大学「ヒデュンプロジェクト」という取り組みでプランツ・キューブさんに2017年1月からカフェを経営していただいています。その取り組みは、プランツ・キューブ、芦屋市、芦屋大学との産官学連携の取り組みです。これは「潜在的な体験学習」を学ぶ企画のことで、主に障がい者の就労支援と学生の学びを目的としています。学生が大学生活を送る中で、カリキュラム（授業）や学園祭などの行事、クラブやサークル活動から得られる「学び」だけでなく、何気ない日常的な大学生活の中から、共生社会を感じ、学ぶ雰囲気を作り、情操を育む教育を目的として行っています。大学のキャンパスで、障がい者が働き、障がい者と学生が交流できる機会を創る中で、ヒデュンプロジェクトの一環である共生社会を体感できることを目的としたカフェ運営を行っていただいています。共生社会を体感できることを目的としたカフェ運営は障がい者の就労支援だけでなく共生社会づくりを進めていく一つの方策になっています。例えば、障がい者の方の自己表現が上手になったり、学生の障がい者の方への接触の仕方がごく自然になったりこの取り組みの成果が表れています。今後は学生もカフェ経営や運営に参画し、障がい者の方々と協力してカフェを手作りで進化させ、障がい者の方々の就労支援に繋げていきたいと考えています。			
連携先企業名	学校法人芦屋学園 芦屋大学	担当者名	中村 卓司